

陽だまり

雪の聖母園 令和5年 Vol.19

2023年を振り返り

社会福祉法人雪の聖母園理事・
ライフネットゆうばり管理者 中川博之

まだまだ用心しながら、ではあります。今年の利用者の皆さん、園児の皆さんのご希望が少しづつ叶えられる年になりました。法人内の障がい関係の事業

は、4年ぶりに道内限定ではあります。旅行に行くことができませんでしたし、こども園、保育園では保護者の皆さんと一緒に運動会や発表会の行事を行うことができませんでした。観光地では宿

取れないほど海外からのお客様が賑わっているようですが、インフルエンザなど新型コロナウイルス以外の感染症も流行ってきている状況では、全て4年前には戻れないのがもどかしい限りです。

アフターコロナの明るい兆しとは裏腹に極端なペースでの物価高騰は、質上げに沸く大企業の皆さんや、なぜかこの時期に給料が上がる政治家の皆さん以外の庶民には、〇〇Lに関わる大事件でした。所得保障でもあ

る障害年金が微妙に減り続けている利用者の皆さんの目から見ると、今の物価高騰と賃金格差はどのように映っているのでしょうか。

今年の猛暑は北海道の人間にとって「生命に関わる」と感じ方も多いのではないのでしょうか。法人の各事業所でもエアコンの設置を進めるとともに、利用者の方皆さん、園児の方皆さんの夏場の健康管理に例年以上に細心の注意を払いました。北海道

の猛暑傾向もどうやら右肩上がりのようなので、線状降水帯によるゲリラ豪雨も含め、夏場の諸対策は大きな転換点を迎えているのかも知れません。

来年は医療、介護、障害の報酬が見直されるトリプル改定の年になります。子どもや障がい者、そのご家族が豊かな生活を送ることができるよう、祈るばかりです。

「主のご降誕のお喜びを申し上げます」

社会福祉法人雪の聖母園理事・
花の里こども園園長 豊田 揺子

いよいよ冬の到来です。寒くて雪が多いことには覚悟が必要ですが、冬になるとクリスマスやお正月など楽しみなことも待っています。花の里こども園では、冬囲いが終わるとクリスマスツリーや飾りを出して、大人も子どももわくわくした気分を楽しんでいます。世界中の多くの人が楽しみにしているクリスマス。イエス・キリストが生まれた日。神様は何を思って御子イエス様をこの世に送ってくださったのでしょうか。

「戦争をやめた人たち」という絵本を見つけました。有名な『クリスマスス休戦』の実話を絵本にしたものです。第一次世界大戦中ドイツ軍とイギリス軍が戦っている戦場。ドイツ軍の塹壕から「きよしこのよる」が聞こえてきました。



ドイツ語なのでイギリス兵には意味は分かりませんが、メロデーは聞き馴れているので、共々平和を祈っていきたいと思います。新しい年が素晴らしい年になりますように、良いクリスマスと新年をお迎えください。

雪の聖母園祭

令和5年9月23日、第31回雪の聖母園祭『チャレンジ！最高の笑顔をもう一度』を無事開催することができました。行動規制が緩まり、3年ぶりの屋外開催となった聖母園祭ですが、今年はお家族を招待し、町内外から少ないながらもお店をお呼びすることができました。

法人からはライフネットゆーばりとマンマルーナが、外部からはひなた屋様、日清医療食品様が出店。また、是非参加したいとお声をいただきまして、キッチンカー（ロング



雪の聖母園

ポテト販売も出店してくださいました。

ステージでは、花の里こども園による『和太鼓』の演奏と子ども達の可愛らしい掛け声でオープニングセレモニーが飾られました。その後もステージショーは続き、北海道

医療大学による『よさこい』を披露して頂き、若さや活気溢れる演舞で盛り上がりました。初めてお呼びした清武館の皆様による『空手』も物凄く、素晴らしい演武で見惚れてしまいました。

カラオケ大会で利用者やご家族が一緒に楽しんで歌い踊る姿は、過去の雪の聖母園祭の雰囲気を感じ出し、楽しくなりました。

祝日にも関わらず、会場一杯のお客様が来場してくださいました。楽しい時間を共に過ごせたことを心より感謝申し上げます。

ご来場された皆様、出店、出演くださいました各団体の皆様、ありがとうございました。

お茶会

雪の聖母園では月に一度、生活介護の利用者さんを中心に「お茶会」を開催しています。C棟で生活する皆さんはなかなか外に出る機会が少ない為、季節を感じられるような内容を企画しています。

今年度は、かき氷・ケーキ・お菓子等の会食を中心に、9月は北欧の風道の駅とうべつにドライブに行きました。皆さんとても良い笑顔で楽しませていました。10月には「ハロウィン★パーティー」を開催しました。思い思いの仮装に身を包み、園内に設置したフォトスポットで記念撮影をして楽しみました。また、お茶会の時に1か月の目標を設定し、目標を持って生活を送っ

て頂けるようにしております。「みんなと仲良くする」「暑さに負けるな！」「たくさん笑う」等、覚えやすく実現可能な目標を設定し、毎月達成できる喜びを感じられるよう支援しています。

高齢化や障がいの特性により、年々できることは少なくなってきていますが、今を楽しめるよう「お茶会」を通して、利用者さんへ潤いのある生活を提供できるよう今後も企画していきます。



買 い 物 会

今回も数グループに分かれ、期間内に順次岩見沢へ外出しています。今秋には旅行を控えており、皆さんおしゃれをして出かけるため、新しい衣類のほか、夕張では売っていない玩具やCDを購入する等、欲しい物を支援員と相談しながら買い物を楽しんでいます。

食事はお寿司やハンバーグ、ステーキなど、利用者の皆さんから食べたいもののリクエストを聞いて、お店を選びました。飲食店の中にはロボットが注文の品を持ってきてくれるところもあり、利用者の皆さんも体験をされていました。

秋は楽しみが多くあります。コロナやインフルエンザの感染に十分に注意を払い、利用者の皆さんにも意識して頂いて、旅行と共にいい思い出をたくさん作って頂けたらと思います。



ライフネットゆうばり

旅 行

夕張の山々も赤や黄色に染まり、ついこの前始まった秋も深まってまいりました。

ライフネットゆうばりの秋の行事では、利用者の皆さんから行きたい場所の希望を取り、旅行を4か所、4グループに分かれ実施しています。4年ぶりの旅行ということもあり、利用者の皆さんはとても楽しみにされていました。

先日は10月19日から20日まで、1泊2日で第1回目となる旭川旅行に行ってきました。天候に恵まれず、2日間とも雨という残念な状況ではありましたが、久しぶりの旅行と言う事もあり、利用者の皆さんはもちろん、支援員も一緒に楽しいひと時を送っていました。

旭山動物園でいろいろな動物を見て楽しみ、

悪天候で冷えた体を層雲峡温泉にゆつくり浸かって温まり、夜は美味しい料理に舌つづみ。

残念ながら黒岳ロープウェイには乗れませんでした。皆さん笑顔で帰ってきました。

これから帯広方面、定山溪、日帰りドライブ旅行を予定しています。天気には恵まれませう祈るばかりです。



はじめまして『さくらんぼ組』

0・1・2歳児の園児数の増加に伴い、10月23日に『さくらんぼ組』が誕生しました。8名から始まり、11月1日には『ちゅうりっぷ組』から移行してきた3名が仲間入りし、11名になりました。更に12月1日からは新入園児も迎え12名となります。急な環境の変化となりましたが、子どもたちは柔軟に対応することができ、お友だちや保育士との関わりや遊びを存分に楽しむ姿が見られています。



さくらんぼ組が誕生してからすぐに保育発表会行われました。今回保育発表会で行ったものは、練習を行うというよりも普段の遊びの中に取り入れていきました。子どもたちはまねっこあそびがとても上手で、いつも保育士と楽しみながら行っていました。劇あそびでは、子どもたちの大好きな「しろくまのパンツ」の絵本を題材にし、子どもたちが自ら演じたい役を決めて、自分で考えてその役になりきったり、ポーズを工夫したりして楽しみながら行っていました。



発表会当日は、最初のわらべ歌を行うときには子どもたちの緊張も見られましたが、歌をうたいながら行っている様子も見られました。その後、幕が閉じたことで子どもたちも緊張の糸が切れて泣く姿がありました。全員が頑張ったステージに上がることができました。

それぞれが自分の精一杯の力を見せてくれた発表になったのではないかと感じています。子どもたち一人ひとりの成長が見られた保育発表会になりました。これからの『さくらんぼ組』をよろしくお願いいたします。



花の里こども園

やきいも

11月2日に子どもたちが楽しみにしていたやきいもを行いました。やきいもの焚き火用に沢山の落ち葉と木の枝をお外あそびの中で集めました。

やきいもをする当日、焚き火の周りで「やきいもグーチャーパー」の歌をうたったり、少し離れた場所から落ち葉を焚き火の中にくべたりしました。年長児は、焚き火を見ながら「美味しくなりますように」「甘いやきいもがいいな」など、お友だちとの会話を楽しみながら焼

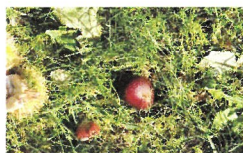


き上がりを待っていました。出来上がったやきいもからは、甘い匂いと湯気が立っており、「甘くておいしい」「たくさんおかわりしたい」と子どもたちの感想をたくさん聞くことができました。たくさんおかわりをしていました。子どもは、昼食の少し前までおかわりをしてやきいもを楽しんでいました。

秋ならではの、落ち葉を集めたやきいもを通して、旬の味覚を味わうことや秋の季節を十分に子どもたちは感じることができたのではないかと思います。

毎日の『生活とあそび』を大切に…

今年も、暑い夏でしたね。残暑も厳しく秋の匂いが、中々しませんでしたね。山々の色付きも遅くなっているようです。札幌の雪中大量発生も夏の猛暑が原因なのでしょうか？不思議な事はかりですね。今年も秋の自然で、たっぷり遊びたいと思います。

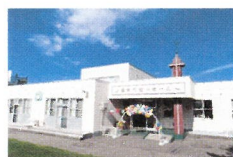


9月に入り、新ひだか町では珍しい程の30度越えの暑さ…。

9月3日に行ったベビーホーム祭も雨天の心配よりも暑さの対策を考え、室内で行う決断をしました。冷房を効かせ『おめん』『宝引き』『ぱくぱくアンパンマン（ボール転がし）』と『おみこし』を各クラスに配置しました。園児やその家族が訪れ、いつもと違う園に戸惑う姿も見られる中、くしを引いたり、ボールを転がしたりおみこしを担いだりと家族のたのしい一時を過ごしてもらえました。私たちも普段見られない楽しそうな親子の表情を見られて嬉しく感じた時間でした。



静内ベビーホーム



懇談会
— 真剣な眼差し —



懇談会で上映するために、園での活動をまとめた動画を作成しました。4月から6月の期間、クラスの様子や園庭でのあそびを撮り、ベビーホームの日課（登園、戸外

準備、入室、食事）を各クラスに振り分けて1日の流れがわかるようにしています。季節ならではの夏の水あそびの様子やわらべうたの取り組みも新たに加え30分程度の映像に仕上げました。10月25日当日は、参加人数もほぼ予定通りでホールいっぱいとなり、保護者の方々の真剣なまなざしに映像が途切れ

ないかの緊張もありましたが無事上映終了。その後、各クラスの保育室見学に移り、普段子ども達が過ごしている環境や玩具に触れるという機会も保護者には好評のようでした。



うれしい秋です



一つ目は、懇談会にたくさん保護者の皆さんが参加してくださったことです。ビデオを視聴し、普段は入る事のできないクラスに入り、担当保育士と話をしていました。コロナ禍時期は制限があり、つらい時間でした。いつも保育にご理解いただき感謝しております。

二つ目は、町内の中学生が職場体験(3名)・職場調査学習(インタビュー・5名)に来てくれたことです。インタビューや保育体験はとても積極的に参加していました。将来の職業として、保育士が選択肢の一つになってくれると嬉しいです。

雪の聖母園家族会

雪の聖母園家族会は50年以上の歴史のある家族会です。現在、会員は60名です。家族会は会則で利用者の一層の幸福と会員相互及び雪の聖母園との融和を深めることを目的としています。

木内神父様もこの子らのために、幸いなホームをつくるには何より父兄の協力が必要であると指導要綱に書いておられます。神父様は知的障がいの子どもたちの施設を「神に選ばれた子どもたちの家」として創園されたと聞いています。

方も増えてきています。家族会も時代に合わせていかなければと話し合っています。

家族会の活動の中心は4月から10月まで奉仕の日にボタンの縫いや雑巾を縫ったりガラス窓の清掃、マリア様像を綺麗にしたり木内神父様の資料館の清掃をしています。これからもよろしく願います。

寄付寄贈(順不同)
令和4年12月15日
令和5年12月11日

- ・渡辺 徹様
- ・双葉中学校・高等学校様
- ・久我昌夫様
- ・菅 純恵様
- ・一般社団法人北海道信用金庫ひまわり財団様
- ・月形町更生保護女性会様
- ・加藤敦子様
- ・林 光行様
- ・田中 喜勢子様
- ・常松 潔様
- ・幸松 正様
- ・平 千代子様
- ・清河 幸雄様

- ・聖トミニ「J」学園様
- ・(株)アキバ設計様
- ・高橋 宏彰様
- ・豊原 一夫様
- ・月形町赤十字奉仕団様
- ・伊達カメルル会修道院様
- ・金滴酒造株式会社様
- ・山崎歯科医院様
- ・出口小児科医院様
- ・月形ライオンズクラブ様
- ・株式会社ほくと給食様
- ・高田書店様
- ・(有)札幌第一こどもとも社様
- ・有限会社札幌北チャイルド社様
- ・株式会社ジャクエツ札幌店様
- ・株式会社フレーベル館北海道支社様
- ・花の里こども園卒園児保護者様
- ・JATA夕張市農協青年部様
- ・札幌光星高等学校 生徒会様
- ・城 みすず様
- ・カトリック八雲教会様
- ・高橋 経様
- ・佐藤 志信様

多大なるご支援、ありがとうございます。



雪の聖母園HP



花の里facebook



静内facebook



本部facebook



ゆうぱりfacebook

編集後記

今年を振り返ってみると、夏は北海道とは思えない暑さを経験し、やっと涼しくなったと思えば、雪虫が大量発生。体にまとわりつく不愉快さから外出するのも億劫に感じてしまう状況でした。そして11月上旬に降った大雪であっという間に秋が終わってしまい、寒さに震えながら急いでタイヤ交換をすることになりました。本当に自然に振り回される一年だったと感じております。本誌が発行される頃には除雪の日々が始まっていると考え、原稿の編集をしながらため息をついてしまいました。

ちなみに今年の目標(キャンプへ10回行く)ですが、自然に振り回された結果、達成することはできませんでした。それでも無事一年を乗り切ることができたことに喜び、気持ちを新たに、新年を迎えたいと思います。

今年お世話になった皆様、誠にありがとうございました。翌年もどうぞよろしくお願いいたします。 広報担当

発行

〒061-0500 北海道樺戸郡月形町字緑町149番地1

社会福祉法人 雪の聖母園

TEL(0126)38-5270 FAX(0126)38-5271